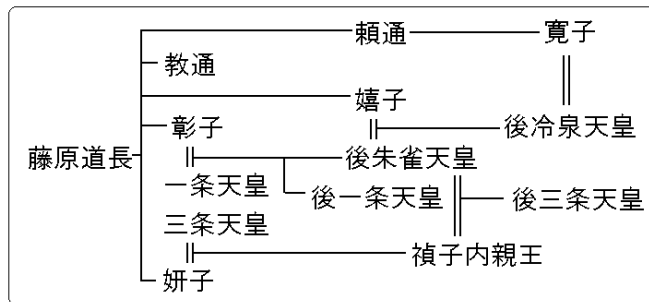


第 5 章	社会(歴史)	名前:	日 付	No.02
	平安			

[問題 1]

次の系図を見て、各問いに答えよ。



- (1) 上の系図は、天皇家と何氏との関係を示したものか。
- (2) 一条天皇と三条天皇のきさきは、だれの娘か。系図中から選べ。
- (3) (2)の人物にとって、後一条天皇はどのような関係にあたるか。
- (4) (2)の人物や頼通がついた、幼い天皇を助けて政治を行う職を何というか。
- (5) 成人した天皇を助けて政治を行う職を何というか。
- (6) 系図から、(2)の人物たちがどのようにして勢力を伸ばしたことがわかるか。「天皇」「きさき」の2つの語句を使って、簡単に書け。

[解答欄]

(1) 藤原氏	(2) 藤原道長	(3) 孫	(4) 摂政
(5) 関白	(6) 娘を天皇のきさきにし、その子を次の天皇に立てて勢力を強めた。		

[解説]

藤原氏

娘を天皇のきさきにし、その子を
次の天皇に立てて勢力を強めた

大化の改新～奈良時代～平安時代と、藤原氏は他の貴族をしりぞけて次第に権力を握っていったが、その秘訣は、自分の娘を天皇のきさきとすることであった。藤原氏の全盛時代を築いた藤原道長は4人の娘を次々に皇后や皇太子妃として、30年にわたって朝廷内で大きな権勢をふるった。当時の貴族社会では、子供は母方の家で養育される習慣であった。天皇と藤原氏の娘であるきさきとの間に生まれた男の子(将来の天皇)は、きさきの実家である藤原氏のもとで育てられたので、おじいさんである藤原道長は将来の天皇になるこの男の子にとって身近な存在となった。幼くして即位した場合、道長がその後見役(摂政)になるのは自然の成り行きである。道長は、娘の一人を天皇のきさきとすることに成功したとき、自分の権勢が絶頂期にあるうれしさを「この世をばわが世とぞ思う 望月の 欠けたることも 無しと思えば(この世は私のためにあるようなものだ。満月の欠けた事がないように私の思うようにならない事は一つも無い)」という歌で表している。さらに、藤原道長の子である頼通は、3天皇 50年間にわたって摂政・関白をつとめ、我が世の栄華を楽しんだ。

[問題 2]

次の各問いに答えなさい。

(1) 荘園に関する次の特権を何というか。それぞれ答えなさい。

- ① 国司の立ち入りを拒否できる権利
- ② 税を国に納めなくてよい権利

(2) 荘園で、その土地を現地で管理した人を何といいますか。下の[]から選んで答えなさい。

[荘園領主 郡司 名主 里長 荘官]

[解答欄]

(1)①不入の権	②不輸の権	(2) 荘官
----------	-------	--------

[解説]

荘園：藤原氏繁栄の経済的基礎
 豪族や有力農民：開墾地を貴族などに寄進
 →自分は荘官 不輸の権, 不入の権

荘園が発生したのは、奈良時代に墾田永年私財法(743年)が出された後である。貴族や寺院は、浮浪農民を使って荒れ地を開墾し、荘園という私有地を獲得していった。このような初期の荘園は、私有地であるが、租税を納める義務は負っていた。

しかし、やがて、藤原氏などの貴族や有力寺院はその権威を悪用して、自分の荘園を「これは田ではなく、自分の邸宅の庭(荘園)である」という理屈をつけて、租税がかからないようにしていった。

10世紀後半になると、地方の豪族や有力農民の中には荒れ地を開墾して私有地を広げる者が出てきた。彼らは土地にかかる租税を逃れるために、土地を藤原氏などの有力貴族や大きな寺院に寄進して、税の免除を受け、自分は名目上**荘官**になって、有力貴族等に(税よりは少ない)年貢を納めるようになった。税を国に納めなくてよい権利を**不輸の権**という。そして、国司の使者の立ち入りを拒む**不入の権**をも獲得した。

このようにして、藤原氏へ寄進される荘園が増加し、そこから上がってくる年貢によって、華やかでぜいたくな生活を送った。藤原氏繁栄の経済的基礎は荘園という私有地であった。

[問題 3]

平安時代、武士団が形成されたが、武士団の統率者は何とよばれたか。

[解答欄]

棟梁

[解説]

10世紀 **武士** が発生
 国司の税の取り立てに対抗したり、
 土地をめぐる相互の争いから自己を
 守ったりするために武装。(一所懸命)
 ↓
武士団 に成長(**源氏** や **平氏**)
 リーダーは **棟梁** とよばれた

摂関政治では、地方の政治は国司まかせで、本来なすべき国司への監督も怠っていた。国司は、4年の任期中に私腹を肥やすことには熱心であったが、治安の維持などの本来の職務を怠ることが多かった。このころ、荒れ地を開墾して荘園という私有地を広げるなどして、有力農民や豪族が成長していった。国司が暴政を行い、政治が乱れてくると、土地所有権をめぐる争いで国司と豪族・有力農民、豪族・有力農民どうしの争いがおこり、また、盗賊の横行など治安の乱れもひどくなってきた。こうした状況の中で、**豪族や有力な農民は土地を守るために弓矢や刀で武装するようになり、国司の税の取り立てに対抗したり、たがいに土地をめぐる争ったりするようになった。**

当時の武士の考え方を表す言葉として「**一所懸命**」というのがある。「一所」(一つの場所＝自分の土地)に「命を懸ける」という意味である。当時の武士(地方豪族や農民の中で武装した者)にとって最も大切なものは土地であった。土地を奪われてしまえば、本人だけでなく家族ものたれ死にする以外になかったからである。

武士は、地方では実力をもっているが、貴族からは低く扱われていた。そこで、天皇の子孫で源・平の姓もつ貴族や、藤原氏の一族が国司として地方に来ると、その家来になったり、彼らと婚姻関係を結んだりして、生まれた子に源氏や平氏などの一族だと名のらせた。このようにして**源氏・平氏などの武士団**が生まれ、そのリーダーは**棟梁**とよばれた。

[問題 4]

文中の()に適語を入れよ。

平安時代の中ごろ、地方では、有力な農民が開墾にはげんで領地を広げ、豪族として勢力を伸ばした。かれらは、国司の税の不当な取り立てに対抗したり、土地をめぐる争いから自己を守ったりするために武装し、こうして(①)が発生した。(①)はやがて従者をまとめて武士団を組織したが、なかでも天皇の子孫とされる(②)氏と(③)氏のひきいる勢力が最も有力になった。

10 世紀の中ごろ、関東では(④)、瀬戸内海では(⑤)が反乱をおこしたが、朝廷はこれを(①)の力にたよって、ようやくしずめることができた。

[解答欄]

① 武士	② 源	③ 平	④ 平将門	⑤ 藤原純友
------	-----	-----	-------	--------

[解答] (②と③は順不同)

[解説]

935年 平将門の乱
939年 藤原純友の乱
→朝廷は、武士の力をかりて、反乱をしずめた

1051年 前九年の役
1083年 後三年の役 → 源義家が鎮圧
この乱後、東北を支配したのは奥州藤原氏
平泉に中尊寺金色堂

10 世紀の半ば、東西で武士の反乱がおこった。関東では、935 年に平将門が国の役所を襲い、自ら新皇(新しい天皇)と名のり、一時期、関東地方の大半を支配した。(組み込む(935)大軍将門の乱) また、瀬戸内では藤原純友が海賊を率いて、国の役所や太宰府をおそった。朝廷は、武士の力をかりて、この 2 つの反乱をようやくしずめることができた。

東北では、蝦夷の子孫である阿倍氏や清原氏が力をのばしていたが、11 世紀の後半に、かれらの勢力争いで前九年・後三年の役がおこった。朝廷から派遣された源義家が、関東の武士を率いてこれをしずめたので、源氏の武士団は東日本で大きな勢力となっていった。後三年の役以降、陸奥・出羽地方を支配したのは奥州藤原氏であった。奥州藤原氏は平泉を根拠地として栄え、浄土信仰の影響を受けた中尊寺金色堂を建てた。

[問題 5]

次のア～ウの、武士による戦いがおこった地域を
右の地図中 A～D からそれぞれ選び、記号で書け。

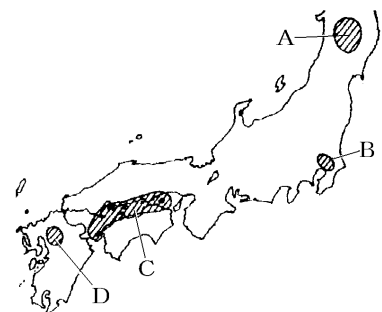
ア 平将門の乱

イ 藤原純友の乱

ウ 後三年の役

[解答欄]

ア B	イ C	ウ A
-----	-----	-----



[問題 6]

後三年の役について、次の各問いに答えよ。

- (1) このできごとは、豪族清原氏の一族の内紛から始まる。これを鎮圧した源氏の武将を書け。
- (2) このできごと以降、陸奥・出羽地方の支配をしたのは何氏か。
- (3) (2)の一族の根拠地はどこか。地名を書き、その位置を右の地図中のア～ウから1つ選び、記号を書け。
- (4) (3)の地に建立された、金色堂で有名な寺を何というか。



[解答欄]

(1) 源義家	(2) 奥州藤原氏	(3) 平泉、イ	(4) 中尊寺
---------	-----------	----------	---------

[問題 7]

次の各問いに答えなさい。

- (1) 10 世紀の初め唐がほろび、やがて()が中国を統一した。()にあてはまる中国の王朝名を書きなさい。
- (2) (1)の国で発明されたものを 1 つ書きなさい。

[解答欄]

(1) 宋	(2) 火薬(羅針盤、活字)
-------	----------------

[解説]

630年 第1回遣唐使
 894年 遣唐使の廃止 ←菅原道真の進言
 唐が衰え、学び取るべきものは少なくなったから
 →唐文化の影響がうすれ、国風文化
 907年 唐が滅ぶ
 960年 宋がおこる(火薬・羅針盤・活字の発明)



7 世紀の初めに隋にかわって中国を統一した唐は、その後、発展をとげた。日本は遣唐使を通じてその文化や政治制度を取り入れ、奈良時代には唐の影響を強く受けた天平文化が栄えた。しかし、9 世紀後半には唐の勢力が衰え、もうそれ以上学び取るべきものは少なくなっていた。また、当時の船は平底で横波に極端に弱かったため、嵐にあつて遭難する確率が非常に高かった。

遣唐使に任命された菅原道真は、894 年、遣唐使廃止の建白を出して承認された。

(白紙(894)に返せ遣唐使) 菅原道真は、藤原氏を押さえるために天皇によって引き立てられた人であるが、その後、藤原氏の陰謀によって太宰府(現在の福岡県)に左遷された。

中国では、唐が 10 世紀の初めに滅び、数十年の内乱の後、10 世紀後半に宋が国内を統一した。

宋では、火薬・羅針盤・活字が発明された。